



2022年4月4日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース第66号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

今週のカカオニュースを配信させていただきます。

1. アフリカカカオ：コートジボワール、雨でミッドクロップは好調も品質低下 (3/28)

世界最大のカカオ生産国であるコートジボワールでは、雨によって新しいポッドが発達し、中型の収穫が近づいているが、乾燥した季節は品質に打撃を与えている。ベルヴィルの生産者、Bertin N' Guessan Kouadio氏は「品質が悪化している」と述べた。

また、国内の一部の生産者は、仲買人の買い付け価格が政府の指定した価格協定を下回っていることを懸念しています。そのため、隣国のガーナに作物を売りに行く人もいと、東部の町アメリキアの協同組合エージェント、ブア・カジオは言います。

また、ナイジェリアでの降雨不足は、ミッドクロップの見通しを悪くしています。生産者はさやの成長を待っているため、作付けが遅れる可能性があります。南西部オグン州の生産者、ソラ・アキングバデ氏は「雨が止んでから農場が経験する暑く厳しい日差しのおかげで、生花の茎はすべてなくなってしまった」と述べる。

カメルーンでは、肥料の価格が40%も高騰したため、カカオ生産者は代替品として養鶏業者から家禽の糞を買おうとしています。

「今シーズンは多くの生産者が化学肥料を撒くことができないかもしれません」と Loum の生産者は困っていると説明した。

2. 特集動画：カカオ生産者は、チョコ利益をもっと多く自国に持ち帰ることを望んでいる (4/1)

1000億米ドル（約12兆円）産業規模のチョコレート産業は、主に南米とアフリカでその上流は始まる。コートジボワールとガーナはカカオ豆の最大生産国の一つであり、カカオ豆は最終的に生豆のまま欧州連合に出荷されることが多い。カカオ豆は最終的に欧州連合（EU）に運ばれ、消費者がよく知るチョコレート製品に生まれ変わるのだ。

しかし、この一連のサプライチェーンの中では、カカオ豆を収穫する農作業よりも、チョコレートの製造・販売に大きなお金が動いているのです。今回の特集「アフリカ+」では、カカオの栽培がヨーロッパの植民地支配によってアフリカにもたらされた経緯と、アフリカの政府や企業家が歴史的な植民地支配のサイクルを断ち切り、アフリカ域内に利益を残すためにどのような努力をしているかを探ります。

*ブルームバーグ社作成の特集動画、わかりやすい動画になっていますので、是非ご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=gCicz3H-5k4>

* YOUTUBE では動画の際に字幕設定が可能です。日本語に設定してご覧いただけます。

3. コートジ、ミッドクロップのカカオ買い付け価格を 825CFA/kg に据え置き (3/31)

コベナン・クアシ・アジュマニ農業大臣は、生産者に支払われる最低価格をメインクロップと同じ 825CFA フラン/kg (約 1.4 ドル/kg) とすることをアビジャンで記者団に伝えた。これは昨年のミッドクロップ価格の 750CFA フラン/kg と比較して上昇している、

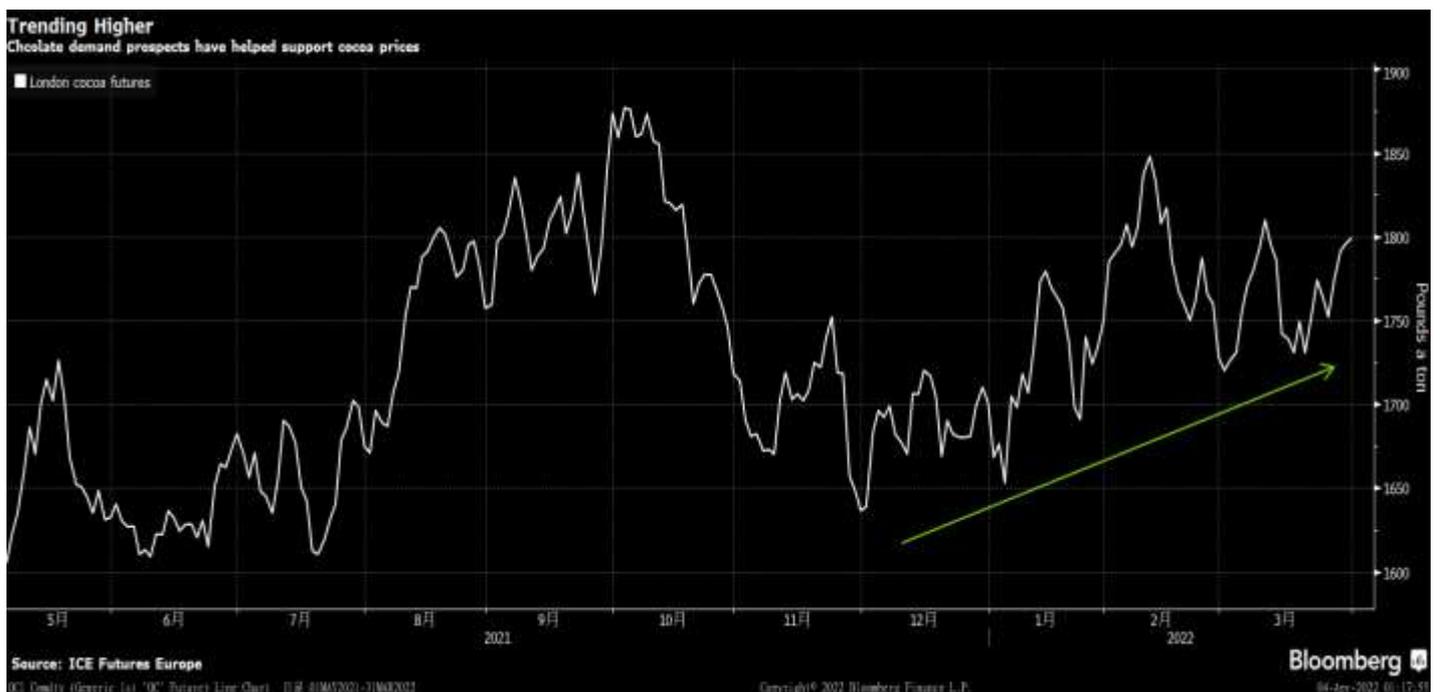
4. コートジボワール、品質重視でミッドクロップ見通しを維持 (3/31)

コートジボワールは、生産者が乾燥した天候による品質劣化を懸念しているにもかかわらず、間もなく始まるミッドクロップの収穫量見通しと買い付け価格を維持した。

同国のカカオ規制機関である Le Conseil du Cafe-Cacao のマネージングディレクターである Yves Kone 氏は、木曜日のインタビューで、金曜日に正式に始まる 2 回の収穫のうち小さい方の収穫は、依然として合計 60 万トンになると予想していると述べた。また、同国は生産者に支払う豆の最低価格も維持した。

市場は一般的に西アフリカ全域で 2021-2022 クロップの大量生産を期待しているが、トレーダーは特にヨーロッパなどの地域でチョコレート需要が堅調に推移すると予測されることから、作柄の見通しには、特に目を光らせている。ここ数週間、アイボリーの生産者は、季節風であるハルマッタン風（現在は収まりつつある）が吹く中、雨が降らないことが品質に悪影響を与えていると述べています。

【2022 年の価格の推移】



コートジボワール南部のディボなど一部の地域を除き、ミッドクロップの品質はほぼ良好であるとコネ氏は述べた。シーズン開始の 10 月頃は、規制当局は今シーズンの記録的な大豊作である前年同期の約 220 万トンから、今シーズンは 20 万から 25 万トン緩和されると予測していた。

コートジボワールのコベナン・クアシ・アジュマニ農相は、木曜日にアビジャンで記者団に対し、ミッドクロップのカカオ買い付け価格はメインクロップと同じレベルの 1 キログラム 825CFA フラン (1.40 ドル) になるだろうと述べた。生産者の中には、政府からの支払いが合意価格を下回り、生産量の減少が予想されている隣国ガーナへの密輸売却に拍車がかかっていることを懸念する者もいるほどだ。

「今年は買い付け価格が守られていない」と、東部の町アメリキアの協同組合の、ブア・カジオは言う。「多くの生産者が、ガーナで農作物を売ることが好んだのです。このため、すでに生産者に前払い融資をしていた協同組合組織は、大きな問題を抱えることになった」。

4月から同国で始まる予定のカカオトレーシング・プログラムは、デジタル決済カードを使用するため、生産者への支払いが適切に行われるという問題に対処するのに役立つはずだ。このプログラムは、欧州市場などからチョコレート原料の供給の持続可能性を証明しなければならないというプレッシャーに直面しているため、コートジボアールが導入するものだ。

「生産者への支払い価格を操作することはできなくなる」とコネ氏は語った。

5. 「カカオ戦争」のベテラン、スクデンが後継者育成へ（4/1）

ソフトコモディティ商社、スクレ・エ・ドゥノレ SA（通称：スクデン）の経営者一族は、創業者の孫に所有権を移し、世代交代を始めている。

父モーリスの死後、スクデンと呼ばれる会社の経営を引き継ぎ、1980年代後半の「カカオ戦争」でトレーダーとして名を馳せた息子のセルジュ・バルサノ（現代表）は、この問題に詳しい人々によると、株式持分の一部を息子たちに譲り渡したという。

同社のグループ企業であるロンドンの証券会社である Sucden Financial Ltd. が今週提出した書類には、Sセルジュ・バルサノ氏はもはや「重要な支配力を持つ人物」ではなくなっていると記されていた。Sucden Financial はパリに本拠を置く Sucden が 100% 所有しているため、親会社の株式保有構造にも変化があったことを意味する。

現在、66歳のバルサノは、長い間計画されていた世代交代の一環として、最近になって息子たちに株を譲渡していた、と関係者は語った。

バルサノ氏は電子メールで、「私の家族が持っているスクデン社の株式は変わっていない」とだけ述べた。Sucden 社の最新の年次報告書によると、同氏は同社の 18.15% を直接所有しており、2020 年末にはさらに 40.25% を家族の資産所有会社が所有していることが判明している。

農産物の取引業界は、現代のビジネス界では珍しく、最大手の多くが何世代にもわたって同族会社であり続けている。最大手のカーギル社は創業者一族が現在も所有しており、ルイ・ドレフュス社はマルガリータ・ルイ・ドレフュス氏が現在も経営している。

しかし、一方で 2001 年にニューヨークで上場した Bunge Ltd. は、Bunge 家と Born 家の傘下にはない。



*セルジュ・バルサノ氏（同社HPより）

パリに本社を置くスクデンは、1952年にモーリスが北アフリカに砂糖を輸入するために設立して以来、バルサ家が所有し経営している。1980年に父親が亡くなってから、間もなくして現在の代表であるセルジュが経

営を引き継いだ。現在、セルジュの息子の1人はスクデンでカカオのトレーダー、もう1人は砂糖のデスクでトレーダーをしていると、2人を知る人は言う。

セルジュの名は、1980年代の「カカオ戦争」と呼ばれるエピソードに由来する。トップの生産国コートジボワールのフェリックス・ウフェ・ボワニー大統領が、カカオ先物価格の暴落に対応してカカオの輸出禁止令を出したのだ。1年半の膠着状態の後、バルサノは大統領を説得して40万トンのカカオの買い付けを実行、その半分をアムステルダムに保管することで価格を下支えした。

しかし、大統領のウフェ・ボワニーは、実はバルサノ社の最大のライバルであるアメリカの商社フィブロ社にもカカオを売っていた。それにより、豆の供給過剰が発生して、価格は暴落した。この事件を契機にスクデンは2011年までカカオ市場からは撤退していたが、皮肉にもスクデンは宿敵であったフィブロの元カカオ部門長を迎え、カカオ事業を復活させた。

また、セルジュ・バルサノは、父の代から続くキューバのフィデル・カストロと親密な関係を築いた。1959年にカストロが政権を握った革命当時、スクデンはキューバのハバナにテレックスを持つ唯一のヨーロッパ企業であり、長年、日本へのキューバ産砂糖の独占供給元であったと社史に記されている。

6. ナイジェリア南西部での降雨により、良好なカカオ収穫への期待が高まる (4/1)。

ナイジェリアの主要なカカオ生産地である南西部で木曜日に降雨があり、数日間止まっていた2021-22年のミッドクロップの豊作への期待が高まったと、トレーダーは述べている。

国内最大のカカオ生産地であるオグン、オヨ、オスン、エキティ、オンドを激しい豪雨が襲ったと、オヨ州の州都イバダンのトレーダー、ピオラ・オグンバンミは語った。

この降雨は、4月下旬に少量ずつ収穫が始まると予想されるミッドクロップの生育を促進すると述べました。「木に実った中実のさやも大きくなり、来月の収穫と販売に備えます。このことは、豆の不足がカカオの販売を遅らせているこの地域のカカオの供給を押し上げるでしょう」とオグンバンミ氏は述べました。

オスン州とオンド州で降雨が記録された12月から2月下旬まで乾燥した時期があり、乾燥した天候は強いハルマタン風によって悪化した。3月中旬までは雨もあったが、再び止んだため、業界では南西部での中間作物の収穫が不作になるのではと懸念されている。

ナイジェリアカカオ協会のジョシュア・オイデレ氏は、オンド州での一晩の豪雨は、同州と他の地域のミッドクロップ・カカオの生育にとって良い兆しであると述べました。

カカオ商人のSunday Taiwo氏は、「5月の第1週目には本格的な収穫が始まるだろう」と述べました。ミッドクロップは、ナイジェリアのカカオシーズンにおける2回の収穫のうちの2回目です。通常、1シーズンの国内生産量の30%を占めます。

7. ガーナのカカオ生産者、露・ウクライナ紛争で肥料不足の中、鶏糞肥料を頼る (3/30)

ガーナ・カカオ委員会(COCOBOD)の最高責任者 Joseph Boahen Aidoo氏は、世界的な無機肥料の不足により、ガーナのカカオ生産者は鶏糞に頼って農業を行うことになると述べました。

3月28日のTV3とのインタビューで、彼はこの肥料の急激な不足は東欧での戦争が原因であると述べました。「ウクライナ、ロシア、ベラルーシ、この3カ国は、肥料の基本要素であるアンモニア硫酸塩を生産しており、これは肥料の生産に非常に重要です」と説明。

「ガーナだけでなく、世界的に、その基本要素が得られなくなると、不足になることを意味するのです。ガーナは、代替物を探す必要があると、彼は言い、鶏糞を最良の選択肢の一つになるだろうと述べた。

8. 明治、カカオの果肉や殻活用した商品開発へ＝飲料や栄養食品、生産者支援 (3/28)

明治は28日、チョコレートなどに使用するカカオについて、これまで活用されてこなかった果肉や殻を活用した飲料、栄養食品などの開発に取り組むと発表した。カカオの価値を高める生産者支援の一環で、栽培

技術や生活向上の支援を受けた地域で生産された「サステナブルカカオ豆」の調達比率を2026年度までに100%とすることを目指す。

チョコに使われるカカオ豆は、実全体の10%程度。殻や皮は土壌に返すなど、有効な活用はほとんどされてこなかった。今後はカカオエキスなど新素材を使った飲料、食品を22年度中に発売。外部パートナーとの協力による家具や容器原料としての活用も探り、カカオ自体の価値向上を図る。ガーナやベネズエラなどのカカオ生産国では、森林減少や児童労働といった社会課題があり、持続的な調達に多くの課題を抱える。明治の足元のサステナブルカカオ豆の使用比率は約40%という。記者会見で松田克也社長は「カカオの実を100%使い切れるよう努力する。世界全体をサステナブルに導く活動を、日本の食品メーカーの代表として実現したい」と強調した。

9. コートジボワール新物、3/21-3/27の週間着荷数量は24,769トン(3/28)

政府のデータに詳しい人物によると、コートジボワールの生産者は先週、24,769トンのカカオを港に出荷した。前年同時期の数量は20,521トンであったので現在港への着荷は増えている。10月1日のシーズン開始からの総着荷数量は、約185万トンとなっており、過去最高であった昨年同時期の177万トンを上回る数字になっている。

下記は、同国内のカカオ豆の買受先の一覧である。最大の買い手は、バリーカレボアのグループ企業であるSaco社や、Olam Internationalの関連企業であるOutspan、やCargillなどの企業である。

以下は、10月1日から3月27日までの上位各社の購入量(単位:トン)の表である。

会社名	購入数量(トン)
カーギルグループ	255,873
アウトスパン(オーラムグループ)	216,024
Saco社(バリーカレボアグループ)	188,489
Touton社	121,524
S3C社	120,614
その他企業	944,788
合計	1,847,312

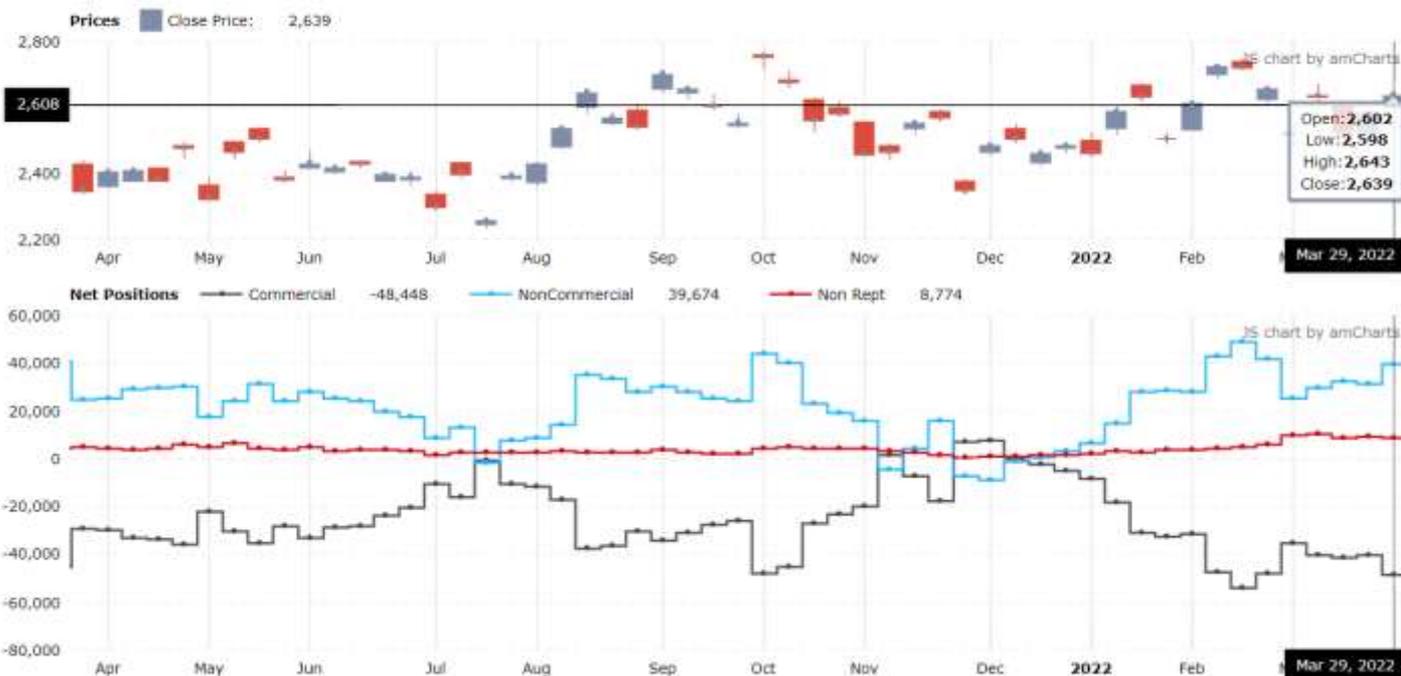
10. ファンド勢のNY先物は純買い越しポジションが増加 5週間ぶりの多さ(4/2)

ニューヨークのカカオ先物市場において、ヘッジファンド等投機筋(Managed Money)は今週、純買い越しポジションを10,624ロット増加(先週は3,826ロットの減少)させ、32,290ロットとした。毎週発表されるこのポジションレポートの取引数字は毎週火曜日まで、(今週で言えば、3月29日)の取引が含まれている。

- 純買いポジション(総買いポジション-総売りポジション)の数量は過去5週間で最も多い。
- 総買い数量は**2,903ロット増加**(先週は**533増加**)し、**58,671ロット**となった。
- 総売り数量は先週より**7,721の減少**(先週は**4379増加**)し、**26,381ロット**となった。
- 総売り数量の数字は、過去10か月で一番少ない数字。

参考分析資料; 過去1年のNY市場の実需家VS投機筋のポジションと相場価格

Prices & Net Positions



黒線・・・カカオ磨砕業者やチョコレート製造会社など実需家

青線・・・ヘッジファンドやコモディティETF等の金融のみのプレイヤー

11. LDN 市場の主要プレイヤーのポジション一覧の分析

Commitments of Traders

Futures only

ICE Futures Europe

29/03/2022

MktDate	OI	Producer/Merchant/ Processor/User		Swap Dealers			Managed Money		
		Long	Short	Long	Short	Spreading	Long	Short	Spreading
29/03/2022	253560	147207	171618	31812	38294	12473	26870	12865	7825

Percent of Open Interest Represented by each Category of Trader

29/03/2022	100%	58.1%	67.7%	12.5%	15.1%	4.9%	10.6%	5.1%	3.1%
------------	------	-------	-------	-------	-------	------	-------	------	------

Number of Traders in Each Category

29/03/2022	128	49	40	11	8	10	20	18	16
------------	-----	----	----	----	---	----	----	----	----

Commitments of Traders

Futures only

ICE Futures Europe

22/03/2022

MktDate	OI	Producer/Merchant/ Processor/User		Swap Dealers			Managed Money		
		Long	Short	Long	Short	Spreading	Long	Short	Spreading
22/03/2022	259884	153580	171990	31397	38235	12867	24960	16260	9894
Percent of Open Interest Represented by each Category of Trader									
22/03/2022	100%	59.1%	66.2%	12.1%	14.7%	5.0%	9.6%	6.3%	3.8%
Number of Traders in Each Category									
22/03/2022	127	48	38	12	7	12	18	20	13

12. 新商品：ヴィーガンや乳アレルギーに対応「ボタニミルクチョコパウダー」5月発売開始

日本ハイドロパウテック株式会社（本社所在地：新潟県長岡市、代表取締役：熊澤正純）は、ヴィーガンや乳アレルギーを持っている方向けに、アレルゲン、アニマルフリーの「ボタニミルクチョコパウダー」を開発した。カカオ含有率の高い『F-100』と米粉配合率が高い『FJ-82』の2種類を、5月2日より業務用途向けに販売開始予定だ。



本商品は、同社独自開発の加水分解技術及び粉末化技術を用いて開発された。ミルクの味は、国産うるち米と白インゲン豆によって再現されており、既存のミルクチョコレートと遜色無い味を持つと好評を得ている。

また極めて高い耐熱性を持っているため、従来高温環境下では溶けてしまう事により、流通不可能であったチョコレート菓子への応用が可能だ。

水溶性もあり、大幅な菌数低減処理を行っているため、従来飲料には用い難かったチョコレートをココアパウダーのように用いる事も可能となる。

*説明および写真は下記プレスリリースより

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000003.000096490.html>

13. 株式会社立花商店 オーガニックフード EXPO2022 出展決定

この度、株式会社立花商店はオーガニックフード EXPO2022 に出展致します。

日付：2022年4月13日（水）～2021年4月15日（金）

時間：10時～17時

場所：東京ビックサイト 東3～6ホール

展示商品：オーガニックチョコレート、オーガニックデーツのチョコレートがけ、カカオフルーツ製品、ウガンダローカカオニブ、カカオマス、ココアパウダーなど

参加方法：ご興味のある方は、入場券をご郵送させていただきます。

お手数ですが弊社・鳥山までお声かけいただけますと幸いです。

衛生面についても万全な体制を整えていく所存です。

実際に商品をお手に取っていただき、ご試食いただくことで楽しんでいただければ幸いです。

それでは、皆様とお会いできることを心よりお待ちしております。

*展示会の詳細説明は下記ホームページより

<https://ofj.or.jp/ofe/top.html>

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商店 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp

*本ニュースの相場情報は、客観的なデータの報告及び、著者の主観的な意見を述べるものであり、一切の取引の推奨を目的としたものではございません。カカオ先物、及び現物の取引におかれましては各個人様、法人様のご判断に基づいて行って頂きますようお願い致します。